

*中国新聞で紹介されました。

広島市豪雨災害伝承館、予想上回る 7000 人来館 開館 3 カ月 県外から研修も (中国新聞 2023.12.7)

2014年の広島土砂災害の教訓を伝える広島市豪雨災害伝承館（安佐南区八木）の来館者数が、9月1日の開館からの3カ月間で約7400人に上り、通年の目標人数を超えた。被災者たちでつくる同館の指定管理者や市は、引き続き関心を持ってもらうための取り組みに力を入れる。

11月末までに7414人（速報値）が来館した。初年度の7カ月間での目標の3500人を大きく上回り、2年目以降の年7千人も超えた。県外からも目立ち、長野、神奈川、大分県などから高校生や地方議員、自主防災会の関係者たちが研修や視察に訪れた。

展示では、土石流を再現したCG映像や、土砂崩れのメカニズムを伝える解説パネルへの関心が高いという。今月6日に訪れた高松市の香南地区連合自治会の23人も見入った。田井昇会長（73）は「ニュースで災害に触れる機会は多いが、実際に現地で説明を聞いて映像を見ると、防災への思いが強まった」と話した。

被災者たちが自らの体験や当時の反省などを率直に語る講座も数十回開いた。訪れる側の要望や年齢層に合わせ、地図を使って危険や課題を可視化する図上訓練や、災害時の対応をゲーム形式で学ぶ研修などを組んだ。

広島土砂災害は来年、発生から10年になる。広島市は、市内の児童生徒の学習利用や市外からの修学旅行の誘致を進め、被災者の証言ビデオの数も増やしたいとする。高岡正文館長（72）は「通常の展示や講座に加え、出水期に防災意識の向上につながる企画も考えたい」としている。（下高充生）

